

研究分野のキーワード：子どもの心理，親子関係，人間関係，保育者養成，メンタルヘルス

#### 研究紹介

私たちには皆「子ども時代」がありました。親や保育者から抱っこをしてもらい、手をつないで一緒に歩き、見るものに新鮮な驚きを感じたことでしょう。ところが、全ての大人が子ども時代を経験しているにもかかわらず、成長するにつれてそれがどのようなものだったのかを忘れてしまいがちですよ。子どもは、私たちが思っている以上に複雑で繊細で傷つきやすいと同時に、単純で大胆で少々のことではへこたれないものです。また、虚構と現実の境目があいまいで、そのためにとても豊かな世界をもっているのです。

子どもは大人を小さくした存在ではありません。ひょっとすると大人とは全く別の感覚を持ち、違う世界で生きているのかもしれない。だからこそ子どもは不思議で、一緒にいればいるほどもっと知りたくなるのです。そんな子ども独特の世界を少しでも知るために、私は幼稚園や保育園での子どもたちの遊びの様子やおしゃべり、つぶやきなどを見聞きして勉強しています。

また、子どもは大人のちょっとした表情の変化や言い方などからさまざまなことを感じています。子どもは大人ほどには言葉が巧みではない分、感覚が鋭いと思います。随分前の話ですが、個人的に落ち込むことがあったものの、元気の無さを隠して子どもたちと遊んでいた私に、4歳の男の子がそっと近寄ってきて「先生、大丈夫…？」と心配そうに話しかけてくれたことがありました。他の誰にも気づかれなかったのに、その子は私のささいな変化に気付いてくれたのです。

子どもは大人の助け無しには生きていけません。しかし、大人も子どもたちからとても大きなものをもらっているのです。それは、私たち大人が忘れていた素直さや純粋さかもしれませんし、温かさや思いやりの心かもしれません。親も子どもも保育者も教育者も皆「人間」です。人間同士がぶつかりあうことは避けられないかもしれませんが、批判しあうだけでは何も生まれません。人の良いところを見つけ、お互いが気持ちよく過ごせるようにはどうしたらいいのかということについて考え、保護者の方々や保育者に伝えることができればと思っています。